

# 観光再生に取り組みむ庄原DMO

商工観光課観光振興係  
 (社)庄原観光推進機構  
 ☎0824-731179  
 ☎0824-750173

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全国各地の観光業が旅行需要の落ち込みで直面しています。本市でも、観光施設が休館するなど、厳しい状況が続いています。

そのような状況の中、来るべき観光需要の回復後を見据えて取り組みを進めているのが、観光地づくりのかじ取り役である(一社)庄原観光推進機構(以下「庄原DMO」)です。

今回はコロナ禍における庄原DMOの取り組みを紹介します。

## 観光事業者などへの支援

庄原DMOは、「観光消費額を向上させ、地域経済を活性化」というミッションのもと、(一社)庄原市観光協会を改組して、令和2年4月にスタートしました。しかし、令和2年度の春の行楽シーズンは、コロナ禍で不要不急の外出が自粛となり、イベントや観光ツアーの中止が相次ぎ、観光誘客も難しい状況になりました。

そのため、まずは来訪者数が減少している観光事業者などを支援するため、コロナ禍の影響や課題について、観光

事業者からの要望を集約し、行政へつなぎました。また、感染者数が減少した秋からは市の「宿泊割引等支援業務」を受託し、宿泊業者や旅行業者の誘客支援を行っています。

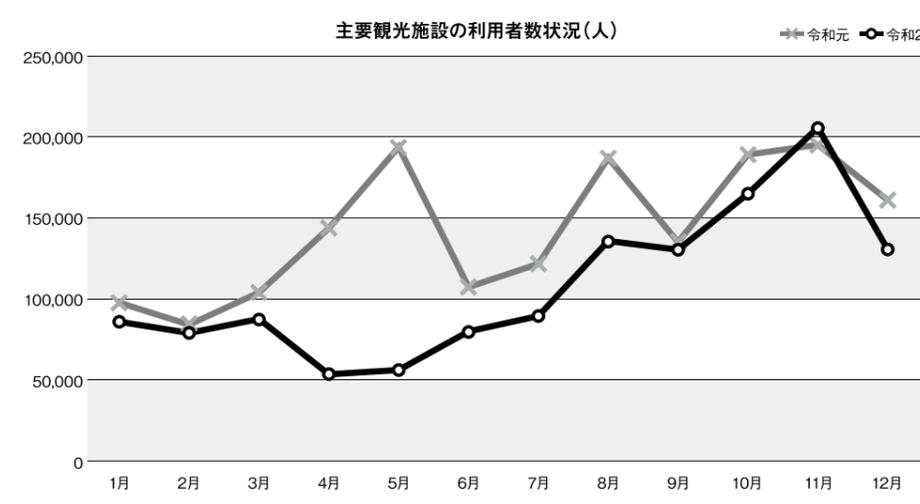
## 庄原の魅力をPR

感染予防を前提とした「新しい生活様式」や「新たな価値観」が広がる中で、旅行・観光ニーズも変化してきました。例えば、3密(密閉・密集・密接)を避けたアウトドアや、施設などを貸し切って利用する「貸切旅」、近場の旅行を楽しむマイクロツーリズムなどが

※DMOとは「観光地づくり法人」のことで、地域の多様な関係者を巻き込みつつ、観光地づくりにかじ取り役となる法人です。観光庁に登録制度があり、観光地づくりにさまざまな支援が受けられます。

## 令和2年の観光客数の推移【主要観光施設】

- 令和2年の主要観光施設の観光客数は対前年比24.2%の減少となった。
- 緊急事態宣言により4月～5月は大幅に減少し、その後GOTOトラベルキャンペーンなどが開始され、徐々に回復し11月は対前年比を上回ったが、12月から再び感染拡大によって大きく減少した。



話題となりました。そのため、庄原DMOでは自然豊かで3密になりづらい庄原の魅力をPRする、観光ポスターやPR動画を配信しました。

夏から秋にかけては、国のGOTOトラベルキャンペーン事業なども追い風となり、

一棟貸しの古民家宿泊施設やキャンプ場は、前年を上回る稼働率を記録しました。

また、県内で最も早く「新しい生活様式」に沿ったバスツアーを企画し、広島駅発着の観光バスツアーは7月だけでも延べ13本、約200人が参加しました。



ワーケーションの様子

## 新しい旅のニーズを踏まえた商品開発

コロナ禍で、テレワークやリモートワークといった新しい働き方が急速に広がる中で、休暇と併用して旅先で仕事を「ワーケーション」(ワークとバケーションを合わせた造語)が注目されています。

本市においても宿泊消費額の向上につなげていくため、旅行会社と連携して「ワーケーション」の旅行商品開発に取り組んでいます。

泊施設でモニターツアーを実施し、県内企業から参加した約20人が2泊3日の日程で、仕事をしながらスキーやスノーシュー(雪上での浮力が強く、沈むことなく雪の上を歩ける靴)を使ったハイキング、帝釈峠散策などのアクティビティを体験しました。参加者からは「オフィスから離れることで仕事にも集中でき、大自然の中で新しい価値観や文化に触れられてリフレッシュできた」と好評でした。今後はさらに、企業研修プログラムや観光アクティビティを組み合わせ、庄原独自の「ワーケーション」の商品開発を目指します。

## 魅力ある滞在コンテンツを探求

観光消費額の向上を図るためには、観光客の周遊促進と滞在時間の延長が欠かせません。そこで、本市の強みを生かした滞在プログラムとして、パワースポット巡りや、フォトツーリズム、フードツーリズムなどの開発に取り組んでいます。

具体的には、地元カメラマンに「フォトジェニック(写真映える場所)や、「インスタ映えスポット」の資源調査



パワースポット巡り



レンタル電動アシスト自転車の整備

を依頼。また、点在するパワースポットを結ぶストーリーの発掘など、点と点を線で結ぶテーマ型の滞在コンテンツの可能性を探っています。

また、新たなアウトドアアクティビティ(屋外でのレジャー、遊び)の開発や、駅バス停などから観光地までの交通手段の改善を図るため、レンタル電動アシスト自転車の整備も進めています。



大自然の中でのアウトドアアクティビティ

# 市民参加の観光地域づくり

この一年は、観光事業者にとつて、かつてないほど非常に厳しい年になりました。今を乗り越え、観光の灯を消さないために、引き続き観光事業者の課題解決に寄り添い、地域経済を下支えしていきたいと考えています。

3密を避けた大自然・アウトドア、マイクローツーリズム、ワーケーションなど、コロナ禍で生まれた新たな旅行ニーズは、豊かな自然環境に恵まれた庄原市にとつて、追い風



(一社)庄原観光推進機構  
専務理事 坂田忠則さん

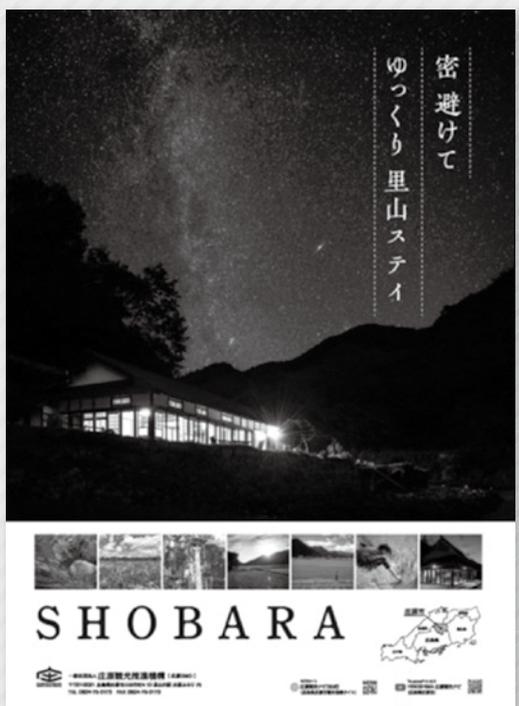
になつていると思います。それらのニーズをしっかりと踏まえ、顧客志向で魅力的な滞在コンテンツを質・量ともに造ることを最優先課題として取り組んでいきます。

近年、関係人口(地域や地域の人と多様に関わる人々)が注目されていますが、コロナ禍でも、リピーターが多い店舗は経営が比較的安定しています。つまり、持続可能な観光にするためには、地域内外の支援者が必要で、観光を起点

に庄原ファンを増やしていくことが求められています。そのため、庄原を好きになる、応援したくなる魅力発信を庄原DMOで取り組んでいきます。

また、市民の皆さん一人一人の力が必要です。市民の皆さんが庄原の魅力を口コミやSNSで発信し、知人や友人などを庄原にいざなう。「人」が最大の観光資源になり得ると思います。

「観光地域づくりに参加したい、協力したい、何かしたい」など、何でも結構です。お気軽にお問い合わせください。一緒に魅力ある観光地域づくりを始めましょう。



コロナ禍に発行した観光ポスター



**皆さんの「やってみたい!」こと、かなえます!**

庄原DMOのスタッフ